



岐阜大学
地域科学部・地域科学研究科

Gifu University
Faculty of Regional Studies

FOREST
2025



contents

■ 学部長からのメッセージ	1
学部案内	2
学科紹介	3
カリキュラムの概要	4
授業科目一覧	5
社会活動演習	6
地域学実習	7
専門セミナー	8
研究科案内	12
専攻紹介	13
カリキュラムの概要と授業科目一覧	14
■ 進学・就職	15
■ 地域科学部の活動と成果	18

FACULTY OF REGIONAL STUDIES
FOREST
GIFU UNIVERSITY



地域科学部

～学部長からのメッセージ～

気が多い人のための学部です

岐阜大学地域科学部は、1996年に日本で最初に「地域」という名称を冠して設置された地域系学部です。地域社会と人間文化が抱える課題を発見し、その解決を図るために、人文・社会・自然科学の多様な専門領域による文理横断的・学際的な教育研究が行われています。地域との連携を含むその教育研究活動は、地方創生と地域発展の鍵として社会的に大きく期待されています。

地域の諸問題を多種多様な観点から総合的に捉えることのできる人材を育てる地域科学部の卒業生は、もちろん公務員になる人が多いですが、他にも地元企業を中心に、金融・保険業、卸売業、小売業、製造業など、幅広い業種に就職しています。

地域科学部の2つの学科が提供するものは、免許や資格の取得を目指してきっちり固められたカリキュラムではなく、学生自身の興味に応じて学びたい分野の学習を深めていくことができる、自由度の高いカリキュラムです。地域政策学科と地域文化学科にそれぞれ2つずつ用意された履修系統に沿って多様な分野の科目を学ぶ一方、専門セミナーと卒業研究により、文系・理系の諸分野（経済学・法学・政治学・地理学・歴史学・人類学・社会学・教育学・心理学・哲学・文学・言語学・物理学・化学・生物学など）の中から、特定の分野を深く学んで専門性を高めていきます。

地域政策学科の履修系統は、「地域政策」「環境政策」の2つです。地域文化学科の履修系統は、「生活・社会」「人間・文化」の2つです。学科選択や専門セミナーの選択にあたっては、たとえば地域政策学科の「地域政策系統」で経済学や法学を中心に学ぶ学生が、一方で「哲学」の専門セミナーに入って哲学関連の卒論を執筆するといった、学問分野の垣根を超えた選択も可能です。目標を一つだけに絞ってフルスピードでまっしぐらに進むタイプの人よりは、いろいろ寄り道しながらゆっくり研究を深めていくほうが好きな、気が多い人のための学部だと言えるでしょう。

地域科学部では多様な学問分野の科目を開講していますが、他学部や社会システム経営学環の開講科目を自由選択科目として履修したり、全学共通教育の単位互換制度を利用すれば、選択の幅はさらに広がります。岐阜大学地域協学センターが提供する「次世代地域リーダー育成プログラム」に参加して、「ぎふ次世代地域リーダー」の称号獲得を目指すのもいいでしょう。

そのほか地域科学部には、学外での実習を行う「社会活動演習」や「地域学実習」といった必修科目もあります。1年間の海外留学をしながらも4年間で卒業できる「国際教養プログラム」も用意されています。

地域の諸問題を解決するためには、あなたの理想を実現するうえでどんな制約があるかを把握し、それらの制約を取り払うにはどうすればいいかを考え、制約を取り払えないのなら、制約の中での解決策を模索することが重要です。お金も人手も足りない中で、たとえ理想には程遠くても、最善の策を見つけるために試行錯誤を繰り返す必要もあるでしょう。その一方で、制約と思われたものを逆手に取って、常識を打ち破り、誰も思い付かなかった意外な解決策を提案できることもあるでしょう。「～でなければならぬ」という常識に縛られて窮屈な思いをしている地域の人々を救うのは、非常識の提案ができる人です。あなたも地域科学部で学び、地域社会に対して生活の新しい遊び方を提案してみませんか。

なお地域科学部の上には、地域政策専攻と地域文化専攻から成る大学院の地域科学研究科（修士課程）があり、ここには地域科学部の卒業生だけでなく、他大学の卒業生や社会人、そして海外からの留学生が集まっています。地域科学研究科では、より高度な専門応用能力とより幅広い国際性の涵養を目指す教育・研究を通じて、高度専門職業人や研究者を育てています。



岐阜大学 地域科学部長
大学院地域科学研究科長

内田 勝

地域科学部

Admission Policy

アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

■教育理念・目標

地域科学部は、「地域」がキーワードとなるさまざまな社会的及び文化的課題について、人文科学、社会科学ならびに自然科学の基礎学力をもとにして、総合的に考究する能力を育てることを目標としています。これにより発展的な地域創成や、豊かな社会形成に貢献でき、リーダーシップを発揮できる人の育成を目指します。

■求める学生像

このような理念・目標のもと本学部の学生には、主に次のような資質を持っていることを望みます。

1. 人間社会の営みや自然との関わりに深い関心を持っている。
2. 物事をさまざまな視点から総合的かつ論理的に考えることができる。
3. 自ら課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。
4. 他者の考えをよく理解し、自己の意見を表現する能力を持っている。
5. 幅広い学問分野を学びながら、自己の専門分野を次第に決定してゆきたいという意欲を持っている。

Curriculum Policy

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

文系分野を主とする学生は理系の知識を、理系分野を主とする学生は文系の知識も兼ね備えることで、総合的な視野と幅広い知識を修得します。このために、人文科学、社会科学、自然科学及びそれらの融合領域に関する多彩な科目を開設しています。

一定の分野に対する専門性を高めるため、また、学生自身が学問的関心や興味のある分野を選択して学ぶことができるように、学習の指針として4つの履修系統（地域政策系統、環境政策系統、生活・社会系統、人間・文化系統）を提示します。これらの4つの履修系統に即した学習を促すことにより、地域の個別課題に対する分析力および対応力を育てます。また、多文化共生の社会で活躍できるようにするために、複数の言語を使った学修を行い、国際教養プログラムなどで国際的な視野や多様な地域の文化への関心を培います。

Diploma Policy

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な専門的能力を備えた人に学士の学位を授与します。

※抜粋（全文は本学部HPをご覧ください）

学科紹介

地域科学部は、地域が抱えるさまざまな問題を解決し、暮らしやすくして平和で文化的な地域社会を創出できる人材の育成を目的とした、日本で初めて「地域」という名称を冠した学部です。学ぶ範囲は広くかつ多様ですが、2年前学期からは地域政策学科、または地域文化学科に所属し、専門性を高めて行きます。中心的に学びを深める4つの履修系統に軸足を持ちながら関連するいろんな分野の勉強をしていきますので、深い専門性と同時に広い視野を身につけることができます。



地域政策学科

主に社会科学と自然科学の協同により、自然環境を含んだ地域社会の構造的な把握と分析そして政策形成の能力の習得を関連づける教育研究をおこない、持続可能な社会を展望しつつより良い地域社会の構築を提言できる人材の育成を目指します。

地域政策系統

現代の地域が抱える政策課題は多様化しており、一つの専門的能力だけでは対応しきれなくなっています。本系統では、そうした政策課題への多様なアプローチを重視し、経済学・地理学・法学などの専門分野をバランス良く配置すると同時に、フィールドワークにも力を入れています。それらを通じて、地域を総合的に理解する視野を広げるとともに、地域産業振興・まちづくり・自治政策などに実践的に取り組む人材を育成することを狙いとしています。

環境政策系統

本履修系統では、物理学系、化学系、生物学系、都市・建築系などの理科系の基盤的な学力を身につけます。自然界の原理と法則、自然・地球環境、生活・都市環境を、数理的考察、フィールド調査、物理学や化学の実験、コンピュータシミュレーション等を通じて深く理解したうえで、科学的知識や技術を環境政策へ生かすことができる人材を育成する教育内容を、体系的に構成しています。

地域文化学科

主に人文科学と社会科学の協同により、人間社会における思想や文化的な表現、及び歴史的な経験や行動などの規範と原理を分析し把握する教育研究をおこない、人間社会に関する確で深い洞察力を備え、社会が抱える多様な課題の解決を展望できる人材の育成を目指します。

生活・社会系統

大きく変貌をとげようとしている地域社会の現実及び地域社会の発展に関する課題を見出すためには、そこで暮らす人々の生活実態を深くとらえることが求められます。本履修系統では、社会調査や実習を通して地域住民と交流するとともに、社会学・人類学・歴史学などの専門的知識を学び、現在およびこれからのコミュニティ創造のための担い手を育成する教育内容を構成しています。

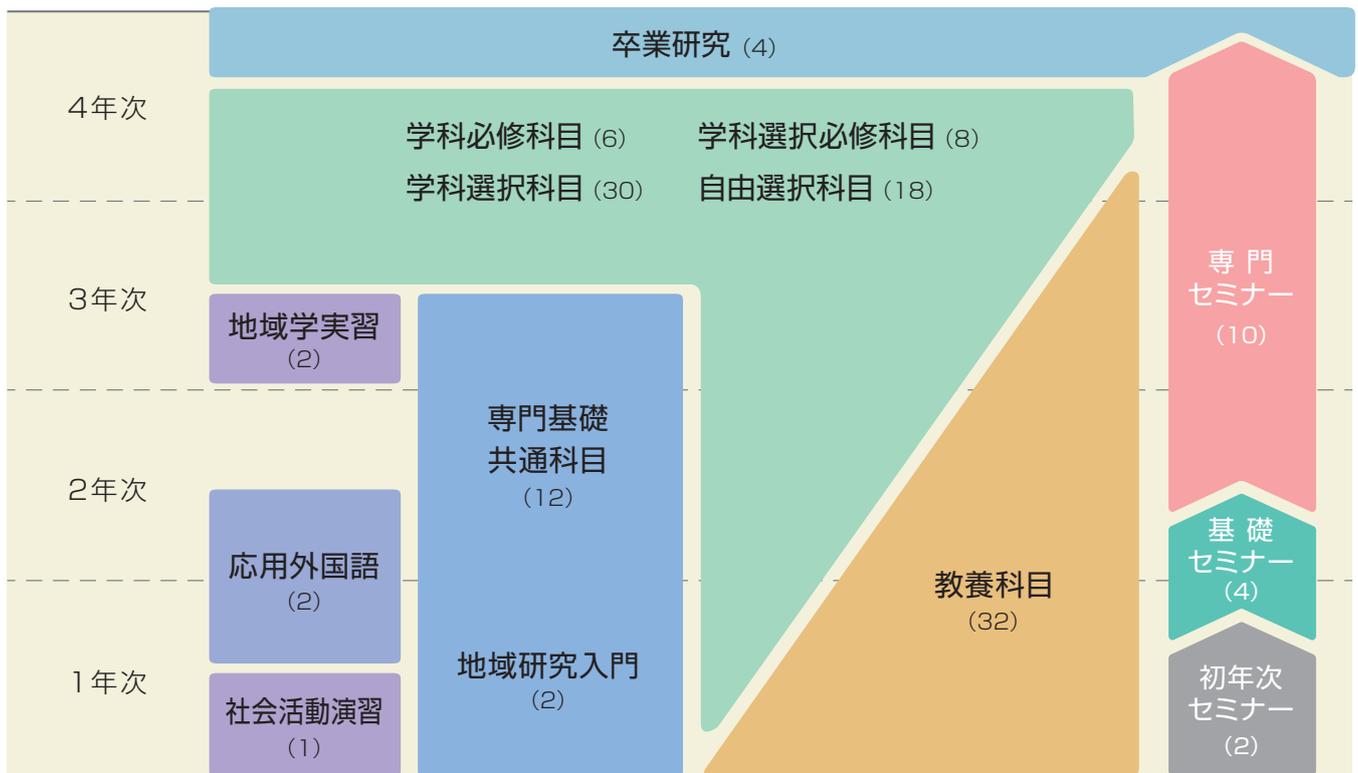
人間・文化系統

地域コミュニティは、独自の伝統文化を継承し発展させると同時に、他の社会や文化と積極的に交流することによって、さらなる活力を生み出す可能性を秘めています。本履修系統は、この視点にもとづいて、グローバル化の時代にふさわしく、多様な言語・思想・文化を学ぶことで、地域文化の創造的な担い手を育成する教育内容を構成しています。

カリキュラムの概要

本学部では、人文・社会・自然の諸科学全般に関する多彩な科目を開設し、総合的な視野から幅広い知識を得ることができる一方で、2年次からは自分が特に興味を持った分野を専門的に学ぶことができるカリキュラムとなっています。また、実際に地域社会の中に出向き、地域が抱える課題に取り組む社会活動演習や地域学実習は全学生の必修科目となっており、現実即した「生きた」知識も学ぶことができます。また、4年間を通じて、少人数でのセミナー教育を行うなど、さまざまな特色ある教育プランを用意し、実践しています。

地域科学部でどんなふうに学ぶんだろう？



()は卒業に必要な修得単位数

国際教養プログラムとは？

現代に生きる人々は、グローバル化という大きな流れの中で進むべき道を見つけることが求められます。そのためには、幅広い教養にもとづいた、自分の暮らすコミュニティおよびに異文化に対する深い理解が必要となります。本プログラムでは、一年間の海外留学や文理横断的な知識の習得などを通じて、地域社会と国際社会の双方で活躍できる能力を育成していきます。

具体的には右表に示すように、外国語運用能力を高める科目群Aに加え、科目群B,Cの人文・社会及び自然科学の諸分野の学習を通して幅広い教養的学識を身につけます。

- 国際教養プログラムには地域科学部の両学科の学生が参加できます。
- 日本人学生は、海外の学術交流協定大学へ一年間の留学（原則として2年生後学期～3年生前学期）を必須としています。留学期間を含めて、4年間で卒業が可能なプログラムとなっています。
- 留学のためには、協定大学の求める語学力水準(TOEFL、IELTSなど)に達していることが求められます。留学の申請は、1年生の9月に行います。
- これまでにプログラムに参加し留学した学生は、2017年度からのべ57名に上ります。

授業科目一覽

地域科学部

学科		地域政策学科			地域文化学科			
履修系統		地域政策	環境政策		生活・社会		人間・文化	
専門基礎科目	必修	初年次セミナー(教養)			地域研究入門	社会活動演習	応用外国語	基礎セミナー
	専門基礎共通科目	A群(理系科目)	記述統計学	微分積分I・II	線形代数I・II	物理学I	化学I	
		B群(文系科目)	地理学 教育・心理学	政治経済学 近・現代史	現代経済学 哲学概論	法学 文学概論	現代社会概論 言語学概論	
専門科目	学科必修	地方行政論	地域づくり論	推測統計学		社会調査法	ジェンダー論	言語文化論
	学科選択必修	計量経済学 日本経済論 地域経済論 経営学 憲法 行政法 民法 行政学 マネジメント特講		物理学II 環境物理学I 化学実験 都市環境工学 環境調査法		地域社会学 地域史 メディア論 文化人類学 人間発達概論		社会哲学 日本文化論 ヨーロッパ文化論 アメリカ文化論 アジア文化論 社会言語学
	学科選択	国際経済論 比較経済体制論 地域産業論 経済政策 社会政策論 労働経済学 会計学 マーケティング論 金融論 環境経済学 地方自治法 労働法 現代政治学 政治過程論 財政学 地方財政論 刑法 裁判法 環境法 地域創生論		応用解析学 数理計画法 物理学III 環境物理学II 環境物理学III 化学演習 物理化学 生物学I 植物生態学 動物生態学 環境保全論I 環境保全論II システム工学 居住環境と心理 地域解析学 地域創生論		障害者福祉論 教育と社会論 社会福祉学 生活支援論 ジャーナリズム論 労働社会学 インターネット・リスク社会論 ジェンダー史 コミュニケーション論 現代心理論 地域創生論		言語と社会入門 口頭表現技法論 近・現代思想論 倫理学 言語哲学 言語理解論 文献学 文化思想史 文化解釈論 表象文化論 文学批評論 言語意味論 言語生活論 博物館学 地域創生論
	学部共通	地域学実習	専門セミナー	卒業研究	地域科学特講			

※上記科目については、一部修正する可能性があります。

		科目群A	科目群B	科目群C		
専門基礎科目	応用外国語	応用外国語I/II 応用外国語A/B				
	基礎セミナー	言語と社会A/B				
	専門基礎共通		物理学I 哲学概論	記述統計学 線形代数I	微分積分I	
専門科目	地域政策学科		日本経済論 憲法 化学実験	地方行政論 環境調査法 生物学I 居住環境と心理	民法 地域産業論 社会政策論	物理学II 化学演習 推測統計学
	地域文化学科	言語と社会入門 口頭表現技法論	アメリカ文化論 近・現代思想論 言語意味論 文化人類学	ジェンダー論 言語理解論 言語文化論	社会哲学 社会調査法 アジア文化論	社会言語学 メディア論 ヨーロッパ文化論

社会活動演習

1年生全員の必修科目である社会活動演習は、実習受け入れ先から多くのご支援を頂きながら実施される本学部独特の実習です。学生たちは、岐阜地域の企業・行政・福祉・環境・博物館などの現場における体験・実習を通じて、地域の諸課題を肌で感じながら理解を深めます。そして、岐阜大学が教育目標として掲げる3つの力と9つの要素で構成される基盤的能力、つまり自立的行動力(計画力、実行力、管理力)、コミュニケーション力(傾聴力、発信力、状況把握力)、総合的判断力(課題発見力、創造的思考力、論理的思考力)の育成のための基本的な構えとセンスを養う場として本演習を位置づけています。

具体的には、学生たちは下記の7つのプログラムのなかから希望するものを選択し、それぞれの担当教員の指導のもとで事前学習、原則として夏季休業期間を利用した数日間の実習に参加することになります。いずれのプログラムも「書を捨てフィールドに出ること」にしており、参加学生たちは教室のなかでは決して体験することのできない「生きた知恵と知識」を体得します。



2025年度実施プログラム(指導担当教員)

- A : 実務家の講習及び刑務所・少年院の見学 (三谷 晋)
- B : 山間地の小学校を起点とした地域づくり (南出 吉祥)
- C : 観光スポットの振興を考える (合掌 顕)
- D : 地域における多文化共生:国際交流イベントの準備・運営補助・参加他(小林 亜由美)
- E : 子供の自然体験教室と植林体験活動 (府川 純一郎)
- F : フランスの球技・ペタンクを知る (ゲラン,ジル)
- G : 地域における子育て支援に関する実態と発達について学ぶ (峰尾 菜生子)

学生の声

2023年度入学 小川 結生さん

社会活動実習では岐阜県本巣市の外山という地域でウォーキング大会などのボランティアを行いました。山に囲まれ、市街地から離れていることなどが原因で過疎化が問題視されている地域でしたが、地域の人達は皆協力的で活気のある人が多かったです。また、限られた地域であるからこそ住民たちが年齢関係なく関わっている姿が印象的でした。

ウォーキング大会以前にも小学校を訪問し、当日に向けた話し合いなどをする中でいかに地域内のコミュニケーションが大切なのかを学びました。当日には小学生の児童たちと共にウォーキングしながら、地域のあるべき姿について理解を深めることができました。人口が少ない地域だからこそそのコミュニティが存在していることを実感できてよかったです。

また、ボランティア以外にも1泊2日の実習のためBBQなどを行い仲を深めることができ楽しかったです。



地域学実習

地域学実習は、3年生の前学期から夏休みにかけて実施されます。講義や専門セミナーで学んだことをふまえて、フィールドに出て調査や活動を実施し、その成果をレポートにまとめるといった一連の作業を通じて、地域の課題の発見と解決に向けて主体的かつ協働的に学ぶ力を養うことを目的とした授業です。

1年生の必修科目である社会活動演習が「体験」を重視するのに対して、地域学実習では授業で2年間学んできたことを前提に、具体的な事実を実証的に解明する「方法」を学ぶことになります。受講学生は下記の7プログラムのなかから興味関心のあるものをひとつ選択し、実習に参加します。



岐阜周辺における地域づくりの比較調査風景

2025年度実施プログラム(指導担当教員)

- 障害者と社会をつなぐ実践知を学ぶ (小西 豊)
- 物流・交通・都市・地域関連課題の調査 (應 江 黔)
- 「身近なモノ」を理解する (十二村 佳樹)
- 地元岐阜における労働実態 (伊原 亮司 / 小林 啓祐)
- 美濃市街なかの昔と今を知る (堀江 未央)
- 岐阜県における外国人労働者の就労実態と労働組合の支援状況 (鈴木 力)
- 東海圏の地場産業の実態調査 (大澤 圭吾)
— 地域産業政策の策定・立案・立法 —
- 歴史資料の整理と保存に関する実習 (水林 純)



下呂市飛騨金山菅田の昔と今を知る

実習の成果は「地域学実習報告書」にまとめられるだけでなく、調査でお世話になった地元住民の皆様に対して、さらには他大学で地域学を学ぶ学生との合同研究発表会の場で公表されます。このような場でプレゼンテーション能力を身につけることも地域学実習の目標のひとつです。

学生の声

2024年度入学(3年次編入) 鵜飼 晃希さん

私は岐阜市歴史博物館に訪れ、資料室の中で保管されている古文書について解読し整理を行うという地域学実習に参加しました。調査を行う前に参考文献を数週間にかけて読み、江戸時代の村社会では人々がどのように暮らしていたかを読み解き前提知識を深めたり、くずし字で書かれている古文書をくずし字辞典を用いて解読するという勉強も数週間かけて行いました。そして最終的に岐阜市歴史博物館に赴き、岐阜市にまつわる様々な文献をくずし字辞典を使いながら解読して資料を整理する体験をさせていただきました。この実習を通して岐阜にまつわる歴史についての理解を深めるいい経験になりました。また、博物館で働いている方々のお話を聞いていく中で、郷土の歴史と文化を保存し後世に伝えようとする様々な人の努力について知ることができました。この地域学実習は、岐阜に生まれた私にとっては地元について知ることができるいい機会でしたし、通常ではなかなか巡りあえない貴重な体験をすることができました。

専門セミナー

2年次後学期から始まる専門セミナーは、地域科学部における教育の基軸となるものです。少人数で開講され、各教員それぞれの専門分野に関連する領域について、学んでいきます。学生の関心・能力に応じたきめ細やかな指導が、4年次の後学期まで継続して、行われ、卒業研究も行っていきます。

各専門分野によって、運営形式はこの専門セミナーでの学びを基に様々ですが、どのセミナーも、学生の関心により近いテーマでの研究を行うため、講義や実習とは異なったおもしろさがあります。セミナーでの議論や思考を通して、問題を発見し、解決する能力を養成することもねらいとしています。

一口に地域科学といっても、そこには対象となる現象が多種多様にありますから、専門セミナーで学ぶテーマは、『地域』を考える上での軸足となります。学生にとっては、セミナー以外の科目は、セミナーを中心に有機的に関連付けられる、ともいえるでしょう。

例えば…

■ 大澤 圭吾セミナー(経済地理学、地場産業論)

本セミナーでは、地域経済や中小企業、地場産業・地域産業、繊維・アパレル産業などを学びのキーワードにしています。

現代において大企業のグローバルな経済活動が急激に進展しています。大企業の経済活動と地域経済の循環構造との乖離が著しくなり、多くの地域経済の疲弊が社会課題となっています。そうした背景のもと、これからの地域経済の担い手として地域に根付いた産業や中小企業がこれまで以上に注目されるようになりました。ただし、研究する上でそれらを一括りにはできません。業種や地域とのかかわり方などによって全く異なる様相を見せています。ですので、過度に抽象化せず、必ず現場へ足を運んで複雑な現実をまずは複雑なまま、できる限り詳細に視ることを大切にしています。

日頃の取り組みは文献輪読と研究報告の二つです。文献輪読では、学期の最初のセミナーにみんなで読みたい本を持ち寄り、持ってきた本を紹介し合って輪読文献を決めます。担当者は輪読箇所のレジュメを作成し、疑問点や論点を提示していただき、それを基にみんなで議論をします。研究報告では、報告担当者が自分の研究テーマに即して調べてきたことをレジュメにまとめて報告し、それに基づいて議論します。これらの議論は、グループに分かれて行い、最後にそれぞれ議論をまとめて報告していただき、全体での意見交換を行います。

年間行事としては、夏は合宿調査、冬は他大学との合同ゼミがあります。合宿調査では、みんなで課題を設定し、調査したい地域のことを調べて、調査依頼を行い、合宿の段取りを進めます。そうしたフィールドワークの成果や各セミナー生の研究成果を合同ゼミで発表し、卒業研究としてまとめていきます。

※写真は合同ゼミでの研究発表の様子です。



■ 神谷 宗明セミナー(物性物理学)

日常生活で私たちが目にするような自然現象は、原理的には、現代物理学の基本原則、主に物質を構成する電子と原子核の運動を考えることにより記述する事ができます。しかしながら、この方程式を完全に解析的に解いて完全な物理現象の予測や理解をすることはできません。

そこで私たちは、興味のある自然系を我々が解くことができるモデルに切り出し、コンピュータ(たまにスーパーコンピュータ)を使って解くという研究を行っています。限られた資源の中で現象を説明するのに必要な相互作用と計算精度を工夫し、物理的な視点でさまざまな角度からモデル化された数式と結果を検討することによって、さまざまな自然現象が説明され、また自然の奥深さを思い知ることが私たちの研究の面白さの一つだと思っています。

私たちの専門セミナーでは、日常生活の背景にある物理法則を、プログラミングなどを通して理解すると同時に、自由な雰囲気での議論も大事にして楽しく勉強しています。



■ 魏 晨セミナー(日本近代文学、比較文学)

本セミナーでは、日本をはじめ、東アジアの文学や文化を広い視点で読み解きます。小説、詩歌や絵本、映画、アニメ、ゲームなど、メディアを跨るさまざまなジャンルの作品を取り上げ、物語の中に込められた文化的、歴史的、社会的意味を読み解いていきます。特定の時代に置かれて、作品をある文化空間の中でどう作り出され、どう受け取られるのか、などを考えていきます。また、多様なアプローチで国や言語、メディアの枠をこえて、文化がどのように交渉し変化してきたかに注目します。

セミナーの前半では、比較文学や現代の文学理論の基本を学び、テキストを読みながら意見を出し合うことで、分析に必要な考え方や視点を身につけます。難しい理論も、ゼミでの対話を通して少しずつ理解できるよう工夫しています。後半では、それぞれが関心のある作品やテーマを選び、発表や議論を通して理解を深めていきます。研究対象は自由で、多様な関心や視点を歓迎しています。卒業論文に向けては、問いの立て方や調べ方、文章の構成や表現についても丁寧にサポートします。

このセミナーでは、ただ知識を学ぶだけでなく、「どこに注目して考えるか」「自分の考えをどう伝えるか」といった力を育てることを大切にしていきたいと思います。作品をよく読み、考え、自分の言葉で表現する経験を通して、より広い視野と深い理解を身につけることができます。文学や文化に関心があり、深く考えることを楽しみたい人と一緒に、自由でおもしろい学びの場をつくっていきます。

■ 水林 純セミナー(歴史学、日本史)

私の専攻は歴史学です。「歴史を学ぶ」と聞いて、皆さんは何を思いますか?「暗記が得意じゃなきゃ付いていけないのかな?」とか、「マニアックな人向けで、自分には縁がなさそうだな」と感じる人も多いでしょうか。意外に思われるかも知れませんが、私は、「歴史を学ぶ」こととは、たとえて言うなら「旅」のようなものだと考えています。皆さんのなかに、こういう経験をもつ人はいないでしょうか。旅先で見知らぬ異邦人と出会い、自分とその人とのあまりの違いにショックを受けたという経験を。あるいは、その人との出会いを通じて、「自分はいったい何者なのか」という問いを逆に突きつけられたという経験を…。

実は、^{タイム・トラベル}歴史研究にも似たところがあるのです。私たちは、過去の人が残した様々な足跡(「史料」といいます)にふれる過程で、自分とは生き方や考え方の異なる「他者」がこの世界に多く存在した事実を知ることができます。また、それを通じて、自分が当たり前だと思っていたことが、実は当たり前でないという事実にもふれることになります。すなわち、「他者」を鏡にすることで、自分という存在を突き放して見るということですが、それは何も、「歴史好き」の人や、暗記が得意な人にだけ許される特権ではありません。

私のセミナーでは、日本の歴史、それも中世から近世への移り変わりの時期(戦国時代とその前後といえ、イメージしやすいでしょうか)に焦点を当て、学修を進めていきます。ただし、この時代に特に関心があるという人でなくても構いません。今自分の置かれている状況に違和感があり、その正体を突き詰めたいと思う人、今日までの自分を相対化し、これまでとは違う未来を模索したいと思う人などなど…。ともに過去への旅に出かけてみませんか?



犬鳴山七宝瀧寺参道入口(筆者撮影)

*七宝瀧寺は、中世荘園の故地として有名な和泉国日根荘遺跡(大阪府泉佐野市)の一部です。フィールド・ワークも、歴史を学ぶ上での重要な方法の一つです。



学生の声

2023年度入学 河合 真由さん

私は魏ゼミで日本近現代文学を中心に批評理論を学んでいます。文学研究は「社会では役に立たない」といったイメージがあるかもしれませんが、確かに文学の研究が直接的に社会課題を解決するといったことはないかと思います。しかし文学と社会は密接に関わり合っています。文学作品に描かれる当時の社会状況や人々の心理を批判的に捉えることは、現在の社会を批判的に考察することにもつながります。また批評理論には、伝統的な作家論や作品論だけでなくジェンダーやセクシュアリティといった観点もあり、一つの作品から様々な解釈を得ることができます。批評理論を学ぶことで文学作品と現代社会とのつながり、物事を多角的かつ批判的に捉えることをより意識するようになりました。

ゼミでは文学批評の方法について学んだ後、自身が興味を持つ作品や作家を取り上げ、関連する論文を紹介し議論をしています。現在はゼミ生が少ないですが、今後人数が増えれば多様な視点を持つ生徒と議論を進めることができるようになるでしょう。



学生の声

2024年度入学(3年次編入) 御法川 日菜子さん

私は峰尾ゼミで心理学を学んでいます。ゼミでは、文献の輪読や、学生各自の研究関心に基づいた論文の紹介・議論を中心に活動しています。加えて、複数人で一つの研究に取り組む共同研究や、先行研究の調査・要約・分析を行うレビュー論文の作成など、卒業論文に向けた実践的な研究にも力を入れています。

私自身の研究テーマは「居場所感の形成」です。このテーマは、社会的に周縁化された人々を対象とした「居場所支援」への関心から発展させたものです。ゼミのメンバーの研究関心は多岐にわたり、反抗期やSNSとストレスといったテーマのほか、スポーツやオタク文化と心理学を結びつけた研究に取り組む人もいます。

心理学の魅力は、扱えるテーマの幅広さにあると感じています。文化、教育、経済、環境など、さまざまな分野と心理学を結びつけて考えることができます。人のいるところに心理学はありますので、自分の興味関心に応じて研究を深めやすい学問だと考えています。



地域科学研究科

Admission Policy

アドミッション・ポリシー（入学者選抜方針）

■ 教育理念・目標

社会、人間のあり方及び自然に関する知見を有し、深い専門性と実践的、創造性豊かな能力によって、自然と調和した地域社会の基盤形成に寄与する人の育成が本研究科の教育目標です。

■ 求める学生像

地域社会、自然環境、人間社会のあり方を探究して、本質的な問題を発見し、それを総合的な視点から解決しようとする意欲と、専門分野の高い知識に加えて、複合的な視野と豊かな学術的知見を追究しようとする意識を持っていることを望みます。具体的には、次のような人を期待しています。

- ・ これまでの知識や経験をもとに、さらなる学問的専門性を身につけ、地域や社会への貢献を考える人
- ・ 自治体、福祉団体、商工会議所などの文化政策・行政政策担当者として活躍しようとしている人
- ・ 地域調査関連の企業・研究機関の研究者や企業の企画調査担当者として活躍しようとしている人
- ・ まちづくり等の地域活動組織で活躍しようとしている人
- ・ さらに高度の知見と専門性の獲得のために博士課程進学や海外研究留学を目指そうとする人
- ・ 国際的に、さまざまな国や地域でその調和ある発展、振興に貢献しようとする人

Curriculum Policy

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ・ 人文科学・社会科学・自然科学及びそれらの融合領域分野を幅広く学びながら自然と調和した地域社会について、専門的に探求することのできる高度な能力を育成します。
- ・ 社会生活と人間文化について広く学びながら自立的で協同的な社会システムとそれに相応した文化や社会的関係の在り方を専門的に探究することのできる高度な能力を育成します。
- ・ 地域社会の経済、行政、自然、生活、思想や文化を研究する授業科目を履修することによって、地域社会や人間文化の諸課題を総合的な視点から追究する新しい地域研究の方法を修得します。

Diploma Policy

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な、より幅の広い視野、より高度な専門応用能力、より大きな国際性を備えた人に修士の学位を授与します。

※抜粋（全文は本研究科HPをご覧ください）

専攻紹介

この研究科の主要目的は地域社会が抱える多くの問題をどのようにとらえ、いかなる方向の解決策がありうるか、ということについて研究・教育することです。地域の個性は複雑であり、それゆえ課題に対し定型的な答えが用意されていることはまれです。そこに地域科学という若い学問が必要とされる根拠があります。学部で勉強したことをさらに深めたいという人はもとより、予備知識は乏しくても暮らしやすい地域づくりに何らかのかたちで貢献してみたい、という想いの方を歓迎します。私たちスタッフとともに考え、ともに活動・調査してみましよう。



地域科学
研究科

地域政策専攻

経済・行政・自然環境の諸領域を中心に広く学びながら、生態系と調和した循環型の地域社会について専門的に教育・研究します。

● 経済社会領域

経済学の基礎理論、経済政策、ならびに地域づくり、まちづくり、農村振興そして両者が交わる地域経済や産業政策などを研究します。

● 行政社会領域

法学の理論と行政法、政治学、および社会政策や地方財政などの領域からなり、行財政政策にまたがるテーマを学びます。

● 自然環境領域

自然科学の発展した理論と、生態学、環境科学などを中心としており、循環型社会づくりに向けた研究を行います。

地域文化専攻

社会生活や人間文化にかんする諸領域を中心に広く学びながら、新たな人間社会とそれに照合した人間のあり方を専門的に教育・研究します。

● 社会生活領域

社会学・社会福祉学・歴史学・人類学等をベースにしなが、人々の生活意識の解明を通して、望ましい生活環境づくりに向けた研究を行います。

● 人間文化領域

哲学・文学・言語学・教育学・心理学等をベースにしなが、文化的存在としての個人および社会の望ましい姿を追求します。

カリキュラムの概要

- **特別演習 I・II・III・IV**：指導教員と相談して修士論文のテーマを決め、その準備・作成を行います。
- **特別研究**：指導教員の指示を受けて、1年次前期の夏季休業中などに集中的に行います。
- **選択必修科目**：地域政策専攻で3(経済社会、行政社会、自然環境)、地域文化専攻で2(社会生活、人間文化)、計5つの教育研究領域に各2科目ずつの選択必修科目があり、この中から2科目(4単位)以上を履修します。
- **自由選択科目**：各教育研究領域ごとに3～8の自由選択科目があり、所属する専攻の科目として6科目以上と、この他に所属専攻もしくはもう一つの専攻の科目のうちから、2科目以上、併せて8科目(16単位)以上を履修します。専門的な分野と幅広い関心に合わせて授業を選べます。非常勤講師による特別講義の他、学内の他の研究科や、他大学の大学院(互換協定を持つのは岐阜協立大学)の単位も認められます。

授業科目一覧

専攻	地 域 政 策			地 域 文 化		
領域	経済社会	行政社会	自然環境	社会生活	人間文化	
選択必修科目	理論経済学特論 比較経済体制論特論	行政法特論 行政学特論	環境物理学特論 環境心理学特論	メディア論特論 生活指導論特論	価値哲学特論 文化解釈論特論	
自由選択科目	計量経済学特論 地域産業特論 中小企業論特論	憲法特論 社会政策特論 地方財政論特論 民事法特論	保全生態学特論 数理システム特論 数理化学特論 環境計算法学特論 都市環境工学特論 数理物理学特論 応用生態特論	歴史学特論 現代史特論 文化人類学特論 社会学特論	生命倫理学特論 日本近代文学特論 表象文化論特論 社会言語学特論	心理学特論 言語文化論特論 言語教育学特論 中国語学特論
地域科学特別講義 I・II・III・IV・V・VI						
特別演習 I・II・III・IV			特別研究			

学生の声

2025年度入学 邱 文萍さん

私は中国語の表現とコミュニケーションのあり方、そしてその背景にある中国の社会・文化に関して研究されている橋本 永貢子先生の元で研究しています。

私は中国語教室を運営しています。生徒たちは中国語を学習することで、同時に、中国の文化や風習、考え方も学びます。このことは、より良い日中文化交流につながっていくと期待しています。

これまでは、自分の経験に基づいて教えていましたが、どうしたら中国の風習や文化等をより良く理解してもらえるかをいつも考えていました。また、自分自身の教学スキルを高めたいという思いもありました。

そんな時、橋本先生が書かれたある社会言語学に関する研究論文を拝見し、中国人である私でも気が付いていなかったことに気付かされ、是非橋本先生の元で研究したいと思うようになりました。

まだ入学したばかりですが、ゼミで日本人と中国人の学生が一緒に学び、意見を述べ合うことは有意義で、毎週楽しみにしていますし、自分の研究により刺激となっています。これからも、橋本先生のご指導のもと、しっかり勉強・研究できるよう頑張っていきたいと思っています。



進学・就職概要

本学部卒業生の就職状況の特徴は、(1)公務員となる学生の割合が高いこと(2024年度卒業生では全就職決定者106名のうち59名(55.7%)、(2)地元企業への就職が多いこと、(3)金融・保険業、卸売業、小売業、製造業、情報通信業、運輸業等、多くの業種に幅広く就職していることが挙げられます。

このように卒業生たちがさまざまな業種に進む傾向にあることは、総合的・学際的な学部である本学部が目標とする学生教育(人文、社会、自然科学の多種多様な観点・立場から、地域の諸問題を総合的に捉えることのできる人材を育てる教育)のひとつの成果であるともいえます。

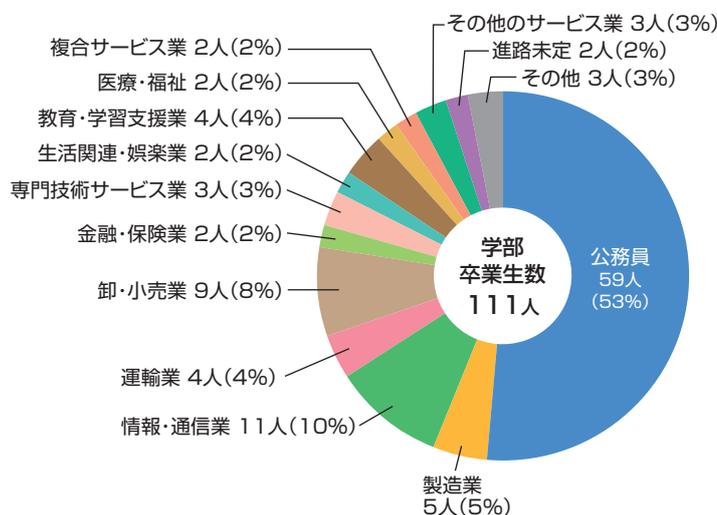
就職状況は他大学と比べても非常に良好といえます。就職不況の際にも本学部の就職状況は全国的にみても高い就職内定率を達成しており、ポテンシャルの高さを示してきました。就職内定率(就職希望者における決定者の割合)は2024年度卒業生では98.1%となっています(2020年度から2024年度の過去5年間を平均すると、卒業時の就職内定率は97.8%です)。

こうした好調な就職状況の背景には、本学部の学生自身が熱意を持って就職活動に取り組んでいることがまず挙げられますが、そのほかにも、学部として学生の活動をサポートするために指導教員をはじめ、就職担当委員の配置によって学生からの相談に迅速かつきめ細やかに対応していること、大学全体のガイダンスとは別に学部独自の就職ガイダンスを実施していること(就職活動を経験した本学部学生の生の声が聴ける等)、数年に一度、卒業生が就職した主な企業に全教員が手分けして出向き、企業担当者から卒業生の仕事ぶりや採用状況を調査・検討していること、などの取り組みがなされています。さらに卒業後のサポートもしています(就職後のトラブルへの対応をしたり、転職や仕事上の悩み等の相談に応じたりしています)。

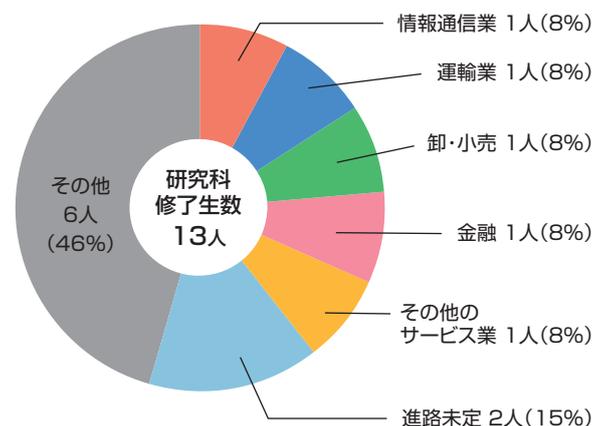
今後も、広い視野と知性を備えた地域を担う人材を育成し、自治体、企業、諸団体の期待に応えていきたいと考えています。

大学院の就職状況に関しては、大学院生には留学生、社会人が多く、留学生は修了後帰国するケースが多いことなどもあり、就職希望者が少ないです。2024年度は、修了生13名の中、就職希望者が7名おり、5名の就職が決まっています。

2024年度 進路状況(学部)



2024年度 進路状況(研究科)



進路

進学・就職

学部 2024年度卒業生進路状況

(2025年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

公務員(59) 経済産業省 郡上市役所 厚生労働省(5) 高山市役所 国土交通省(5) 名古屋市役所(5) 財務省 一宮市役所(2) 裁判所 豊田市役所(2) 岐阜県庁(13) 安城市役所 愛知県庁(3) 犬山市役所 岐阜市役所(4) 四日市市役所 各務原市役所 清須市役所 大垣市役所 津島市役所 羽島市役所 東海市役所 可児市役所 尾張旭市役所 関市役所 富山市役所 美濃加茂市役所 八百津町役場		製造業(5) (株)大鹿印刷所 MMCリョウテック(株) 鍋屋バイテック会社 三菱自動車工業(株) (株)バンダイ		運輸業(4) ANA中部空港(株) SGホールディングス(株) 名鉄グループバスホールディングス(株) 名古屋鉄道(株)		卸・小売業(9) 栄光堂商事(株) 岡谷鋼機(株) 国分グループ本社(株) 木徳神糧(株) オルビス(株) ゲンキー(株) (株)ゲオホールディングス 中部薬品(株) 岐阜トヨペット(株)	
情報通信業(11) コグニザントジャパン(株) (株)キャッチネットワーク コムチュア(株) (株)トヨタシステムズ (株)CTV MID ENJIN (株)システムサポート (株)ドコモCS東海 (株)CBCラジオ (株)トラックス 共立コンピューターサービス(株) (株)電算システム							
専門技術サービス業(3) ドリームステデザイン(株) (株)ADベイス 司法書士法人名南経営		教育・学生支援業(4) 学校法人神戸学園 (株)タネトネ 名進研ホールディングス(株) (株)日立アカデミー		生活関連・娯楽業(2) (株)JTB TBCグループ(株)		医療・福祉業(2) 岐阜県国民健康保険団体連合会(2)	
複合サービス業(2) ティー・アイ・シー協同組合 全国大学生生活協同組合連合会東海ブロック				その他のサービス業(3) (株)リクルートオフィスサポート (株)全日警 (株)マイナビ			

卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	進学者数	進路未定者数	その他	就職率 (就職決定者数÷就職希望者数)
111名	108名	106名	0名	2名	3名	98.1%

研究科 2024年度修了生進路状況

(2025年5月1日現在;カッコ内は人数で1名の場合は省略)

情報通信業(1) エイ・フォース(株)	運輸業(1) 濃飛乗合自動車(株)	卸・小売(1) (株)田和	金融(1) (株)十六フィナンシャルグループ	その他のサービス業(1) AKKODisコンサルティング(株)
-------------------------------	-----------------------------	-------------------------	----------------------------------	---

修了生数	就職希望者数	就職決定者数	進学者数	進路未定者数	その他※1	就職率 (就職決定者数÷就職希望者数)
13名	7名	5名	0名	2名	6名	71.4%

※1 社会人修了生を含む

先輩たちの声

地域科学部 卒業生

2023年度卒業 河村 莉沙さん



2023年度地域科学部地域政策学科卒業生の河村莉沙です。私は地域科学部の学べる分野の広さに惹かれ、入学を決めました。

地域科学部では一年次から分野にとらわれず、様々な講義を受講することができるため、学びながら自分の関心のある専攻を見つけていくことができました。私は特に法律・政策系の講義に関心があったため、民法や刑法、労働法などの講義を受講しました。他にも環境調査やまちづくり論なども受講し、同じ時期に異なる分野を学ぶことで、広い視野を持つことができましたと感じています。

二年次後半からは専門セミナーも始まり、各自で興味関心のあるセミナーを受講することができます。私は社会政策論のゼミに入り、政策や社会問題についてゼミ生同士でディベートを行い、社会問題について客観的に捉える視点を身につけました。卒業論文では女性活躍政策について検討し、現状の取組に関する問題点や新たに必要となる政策について、自分独自の視点から主張を展開しました。女性活躍には男性の家庭参加が欠かせず、女性へのフォローと共に男性への働きかけも重要であることや、子供を持つ女性ばかりでなく、独身女性へのサポートも活躍に必要であることなどを指摘しました。

私はゼミで女性活躍について専攻していた経験から、労働局での勤務を希望し、現在は労働基準監督官として働いています。労働基準監督官は適正な労働環境の実現に向けて尽力する、とてもやりがいのある仕事です。いつかゼミで専攻していた女性活躍に関わる、雇用環境・均等行政にも携わり、大学時代に培った知見を活かしたいとも考えています。みなさんも地域科学部で様々な学問を学び、その後の職業選択に活かしてもらいたいと思います。

地域科学研究科 修了生

2023年度修了 陳 傑雯さん



陳傑雯(ちん・けつぶん)と申します。中国・広西チワン族自治区南寧市の出身です。2021年4月より、岐阜大学の牧秀樹研究室に研究生として所属し、本格的に研究の道を歩み始めました。しかし、新型コロナウイルスの影響により、しばらくの間来日できず、2022年にはオンラインで入試を受け、無事に修士課程へと進学いたしました。そして、同年5月に来日し、岐阜大学での留学生活が始まりました。修士課程では、「最小日本語テスト」の開発に取り組むと同時に、データ分析のスキルを身につけてまいりました。また、ティーチングアシスタント(TA)として授業運営のサポートにも携わり、研究活動に加えて、多くの貴重な経験を積むことができました。これらの経験を通して、自身の成長を実感するとともに、言語を通じた人とのつながりの大切さを改めて認識することができました。2024年3月に修士課程を修了後、IT業界に

就職いたしました。これまでに学んできた分野とは異なる道ではありますが、「言語を通じて人とつながること」や「学び続ける姿勢」といった、私がこれまで大切にしてきた価値観は、ITの世界でも変わらず生かされていると感じております。

現在は、AWSやPythonを用いた業務に携わりながら、日々新しい知識を吸収し、自身のスキルを高めることに努めています。未経験分野への挑戦には困難も伴いますが、大学院での研究活動やTAとしての経験で培った「考える力」や「粘り強さ」が、現在の仕事において大きな支えとなっています。岐阜大学で過ごした2年間の学生生活、牧先生のご指導、そして多くの中国人の友人や中国語に関心を持つ日本人の友人たちとの出会いなど、すべての経験が私にとってかけがえのない宝物となりました。これらのご縁に、心より感謝申し上げます。

在学中の皆さまへ

ぜひ、さまざまなことに触れ、幅広い経験を積みながら、ご自身の可能性を探し続けてください。人生は決して一つの道に定まっているものではありません。思いがけない出会いや経験が、新たな道を切り開いてくれることもあり、限られた学生生活の時間を大切に、多様な挑戦を通じて、自分自身の世界を広げていただければ幸いです。

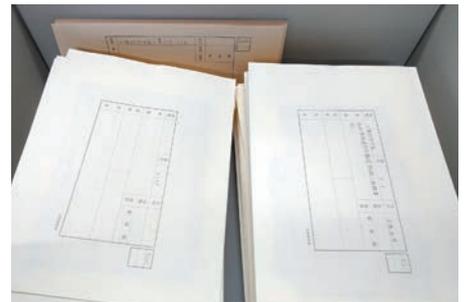
地域科学部の活動と成果



地域情報センター

URL <https://www1.gifu-u.ac.jp/~forest/rilc/>

地域情報センターには、岐阜県内の市町村(平成の合併前の市町村分類を含む)の様々な行政・歴史・伝承・文化・観光資料に加えて、500点以上の「水」関係の資料があります。「水」は「ヒト」を含む全ての生物の源であるという観点から、環境・生活・経済・工学・伝承というように、様々な視点から学際的に収集を行っています。特に、岐阜の地域資料として、清流「長良川」の河口堰建設や徳山ダム建設に関して、50年以上に渡る住民運動の具体的な動き、政治活動、海外環境団体の動き等3000点以上の資料を関係者から寄付していただき、整理しております。これらの資料項目は、一部個人情報を除き、HP上に掲載し、センターでの閲覧や貸し出しも行います。



また、岐阜県を中心とした東海地域の史料を収集・整理し、目録の作成も行っています。現在は、教育学部所蔵の「池田郡八幡村竹中家文書」の史料整理を進めています。竹中家は江戸時代、八幡村で庄屋をつとめた家で、5400点以上の史料群には、村の紛争や治水、中山道など、豊富な内容を含んでいます。年1回発行している『地域史料通信』では、史料整理を進める中で発見した、興味深い史料を紹介しています。姫君の輿入れと中山道をはじめ、長良川の境界論争や村と寺院の論争など、毎年ちがったテーマで史料を紹介しています。今後も、多くの皆様に地域史料の魅力をお伝えし、活用できるように、目録の作成と『通信』の発行を続けていきたいと思っております。

毒性予測ソフトウェアによる効率的な化合物開発

化学メーカーが医薬品や農薬、化粧品、添加剤等を対象として、有益な機能を持つ新しい化合物を開発して売り出すためには、法令やガイドラインに規定された毒性試験を通過しなければなりません。せっかく新しい化合物を開発しても毒性試験が通過できずに失敗する場合も多く、この経済的損失と環境負荷は、世界の化学業界全体で年間3000億円以上に上ると推計されます。

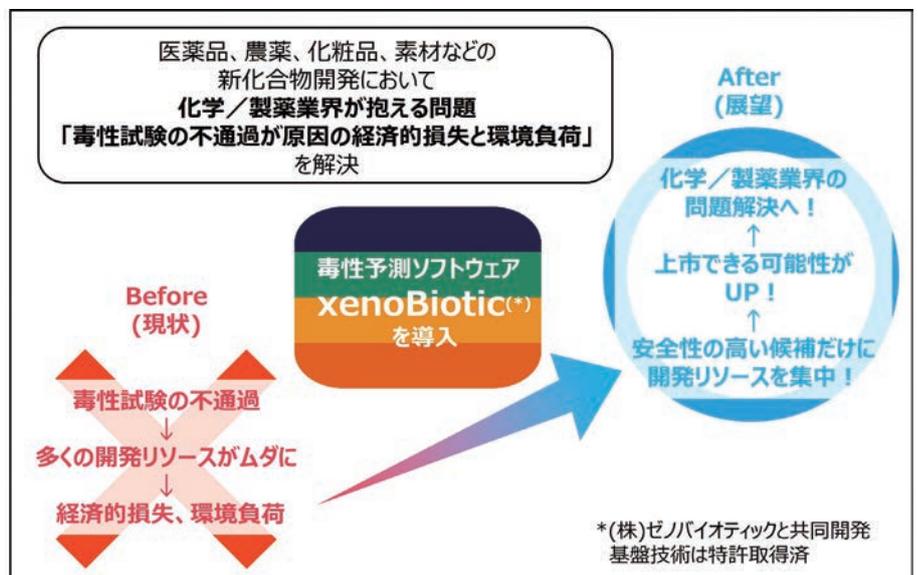
この課題を解決するために、私たちは新しい化合物の Ames試験(*)の結果が予測できる化学者向けの毒性予測ソフトウェア[xenoBiotic]を「岐阜大学発ベンチャー」に認定されたゼノバイオティック社(<https://xenobiotic.jp/>)と共同で開発しています。ソフトウェア開発にあたっての基盤技術については、特許を取得しています。

また、地域科学部教員5名で企画した「毒性予測ソフトウェアによる効率的な化合物開発の支援」は「地域展開ビジョン2030 地域創生プロジェクト」の一つにも選定されています(図)。

2024年にxenoBioticの最後のβテスト(*)を実施して、化学メーカーに予測性能等を評価してもらいました。この評価結果を受けてxenoBioticを改良して、サービスの提供を2025年6月頃に開始する予定です。

※世界的に普及している標準の遺伝毒性試験。ネズミチフス菌4種と大腸菌1種の計5種の菌が、試験物質によってどの程度の突然変異を起こすかによって遺伝毒性の有無を判定する。

*製品をリリースする前の最終段階で行われるテスト。限られた数の組織外のテスト者が試用/評価する。βテストで得たフィードバックにもとづいて、製品の完成度を高めることが目的。



プロジェクト概念図(『地域展開ビジョン2030 地域創生プロジェクト』冊子より)

岐阜大学公開講座（地域科学部企画）

地域科学部では研究成果を公開講座として高校生以上の一般の方々に提供しています。20年間にわたって講義形式のものから「まちあるき」体験のようなものまでバラエティーに富んだ企画を展開してきました。例年、参加者から知的好奇心を満たすことができたという好評を博しております。大学での学びに興味のある方なら、どなたでも無料で参加できますので、是非とも地域科学部の公開講座に足をお運びください。

今年度は次の内容で公開講座を開催します。講座内容は「言語三昧：あっぱれ豊昇龍、日本語の起源、英語テストは3分で、ひらがな活用法」（言語学（生成文法・言語教育））、「地域科学部ではこんなこともやっていますー 化合物の毒性を予測するソフトウェアの開発ー」（量子化学）、「『民族』ってなんだろう？ 中国雲南省のフィールドから考える」（文化人類学・地域研究）、「森友文書改ざん事件から考える情報公開と職務命令」（法学）などで準備を進めております。詳細は大学ホームページなどをご覧ください。



高校生のための街なかオープンカレッジ

「地域」が大学での学びの対象となることを体験し、地域での活動に興味をもってもらうため、地域科学部が主体となり、岐阜県の大学が共同で開催する「高校生のための街なかオープンカレッジ」を開催しています。

2024年は、10月に中津川市にて、「中心市街地まちづくりビジョンを考える」を主題としたオープンカレッジを開催しました。地域で活躍する団体の職員などの講義を受け、実際にまちあるきに繰り出し、地域活動の取組について話を聞くなどし、高校生たちが自ら気づくことができる時間になりました。その後のワークショップでは、まちづくりについて考えるとともに、大学での少人数の主体的な学びを体験することができました。

今年度も開催に向けて調整を進めておりますので、高校生のみなさんは是非ともご参加ください。

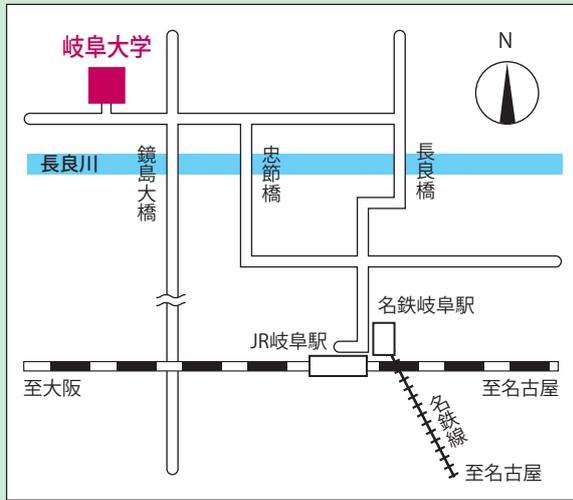


教員一覧

(2025年6月1日現在)

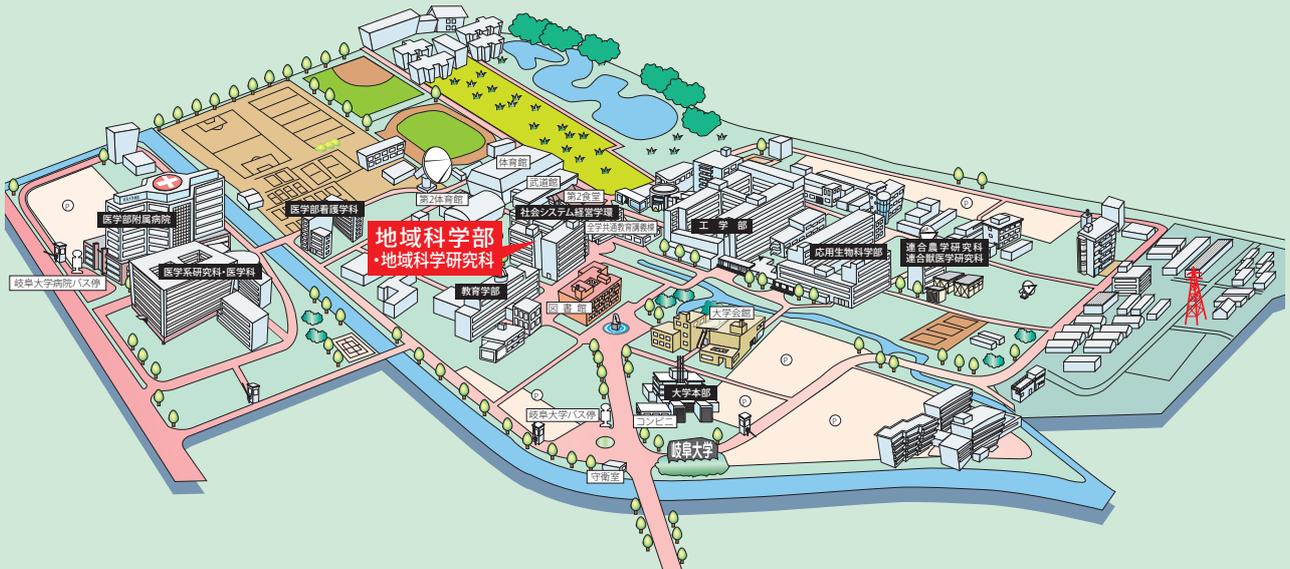
学科	講座	職位	教員名(専門分野)	研究内容のキーワード
地域政策	地域政策	教授	山本 公德(行政学)	現代国家、官僚制、地方行政、公共性
			河合 壘(法学)	雇用(労働)契約の終了、パワーハラスメント、安全配慮義務、契約自由の原則
		准教授	小西 豊(比較経済学)	経済システムの国際比較、比較企業、比較制度分析、企業と社会、CSR
			三谷 晋(行政法)	行政訴訟、行政手続、環境訴訟
			柴田 努(理論経済学)	日本経済論、政治経済学、現代資本主義論、経済のグローバル化
			小林 啓祐(経済史、都市計画史)	まちづくり 都市計画 社会基盤 受益者負担 住宅団地
		助教	小牧 亮也(憲法学)	民営化、憲法の適用範囲、憲法規範の実現、公共性
			鈴木 力(経済学、労務関係論)	労働組合、産業構造と働き方、労働政策、労働争議
	地域環境	教授	大澤 圭吾(経済地理学、地場産業論)	地域経済、中小企業、繊維・アパレル産業
			和佐田裕昭(量子化学)	電子状態、コンピュータグラフィクス、化学反応制御、溶液内の化学反応
			應 江黔(情報工学)	情報処理、交通システム分析、交通に関わる経済問題
			合掌 顕(社会工学)	建築環境工学、バリアフリー、環境心理学、景観評価
			向井 貴彦(保全遺伝学)	生物地理、生物多様性、DNA分析
			神谷 宗明(物性物理学)	密度汎関数理論、線形応答理論、Coupled-Cluster理論、非線形光学
		准教授	橋本 智裕(理論化学)	分子軌道法、励起状態、大気化学反応
			十二村佳樹(都市環境工学)	ヒートアイランド現象、都市環境気候地図(クリマアトラス)、GIS
		助教	中塚 温(統計物理学)	量子モンテカルロ法、自由エネルギー、相対論効果
		地域文化	地域文化	教授
洞澤 伸(社会言語科学)	コミュニケーション、「若者言葉」、携帯電話、ことばと文化・社会			
橋本永貞子(現代中国語学)	日本と中国のコミュニケーション、ことばと文化、場面と表現、言語と意味と機能			
牧 秀樹(言語学)	生成文法			
笠井 千勢(英語教育学)	第二言語習得論			
准教授	ゲラン,ジル(フランス語)			フランス語
	フランクシュタイン,アレクサンドラ(ドイツ語)			ドイツ語
	柴田 和宏(哲学史)			西欧初期近代の自然哲学、物質と生命、自然観、哲学史・科学史
助教	小林亜由美(20世紀アメリカ文学)			アメリカ文化、ジャズ・エイジ、ハーレム・ルネッサンス
	府川純一郎(社会哲学)			批判理論、承認論、自然倫理学・美学、善き生
	魏 晨(日本近代文学、比較文学)		日本語文学、日中比較文学、アジア文化交流、児童文学と文化、文化の越境、翻訳	
地域構造	教授		野原 仁(ジャーナリズム論)	メディア政策、ジャーナリズムと権力、メディアと市民参加、テレビ文化、映像表現
			南出 吉祥(生活指導論)	教育-福祉-労働、若者の自立、居場所、支援、貧困
	准教授		伊原 亮司(労働社会学)	管理と労働、技術、組織、権力
	講師		加藤 公一(現代史)	戦争と平和、国際関係史、現代アメリカ社会
	助教		堀江 未央(文化人類学、地域研究)	家族、ジェンダー、移動、西南中国、少数民族
			峰尾菜生子(心理学)	現在の社会と人間の心理、社会関係の中での発達、社会観、青年期の発達
			水林 純(歴史学、日本史)	日本中世史、中世・近世移行期、戦国時代、村落史、地域社会、一揆

Information



ACCESS

- JR岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、JR岐阜駅前(北口)・バスターミナル9番のりばから岐阜バス岐阜大学・岐阜大学病院行きで約30分 (JR名古屋駅からJR岐阜駅まで東海道本線新快速で約20分)
- 名鉄岐阜駅から北西へ約7kmの場所にあり、名鉄岐阜駅前4番、5番のりばから岐阜バスで約30分
- JR岐阜駅、名鉄岐阜駅からタクシーで約20分
- 東海環状自動車道「岐阜IC」から車で2分(2km)



お問合せ先

岐阜大学地域科学部

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL.058-293-3326(ダイヤルイン) FAX.058-293-3008

<https://www.rs.gifu-u.ac.jp/>